

令和7年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5 議席 番号	6 氏名	中 野 健太郎 議員	1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1	【不快害虫】ヤスデの大量発生が拡大している	<p>外来生物のヤンバルトサカヤスデが富士宮市内南部で大量発生している。静岡県によると、令和2年までに市内での分布が確認され、年々その発生範囲は拡大している。市民は梅雨の大量発生期を恐れる日々を過ごしている。</p> <p>市では自治会の自主防疫活動のために駆除薬剤の配布を行い、ウェブサイトに対策方法を紹介しているが、現状その自主防疫活動は追いついておらず、現状の対策が十分とはいえない。生態や駆除の調査研究に決定的対策が発見されていない今、市民協働で発生を抑制し、これ以上の発生範囲の拡大を防ぐ取組が必要と考え、以下質問する。</p> <p>(1) これまでの駆除薬剤の配布状況は。</p> <p>(2) 分布拡大の要因とさらに拡大した場合の対応策を検討しているか。</p> <p>(3) 薬剤配布希望場所の充実等、自治会活動支援を広めることはできないか。</p> <p>(4) 行政と住民が連携した対策のほか、事業所への協力呼びかけなどが必要ではないか。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
2	人口減少・超高齢社会の防災！災害関連死を防ぐために平時にできること	<p>令和5年3月、「富士宮市地震対策アクションプログラム2023」が策定され、「減災・被災後生活の健全化」の基本理念の下、個別アクションの目標指標と指数が設定された。</p> <p>このうち、重点施策に掲げたうちの一つ、「要配慮者の支援体制の確保」については、社会の脆弱性が高まる人口減少・超高齢社会において欠かすことのできない取組であり、これまで以上の取組強化が求められる。また、災害時要配慮者は災害関連死につながるケースが過去の事例からも多く、福祉の観点からの減災に取り組まねばならないとの考えから、以下質問する。</p> <p>(1) 富士宮市避難行動要支援者避難支援計画 第3章 平常時における要配慮者対策について。</p> <p>① 要配慮者宅の防災・減災対策に掲げた家具固定と耐震診断耐震補強の状況は。</p> <p>② 避難行動要支援者名簿の作成及び情報共有の状況は。</p> <p>③ 自治体の努力義務となっている個別避難計画の作成状況は。</p> <p>(2) 介護保険サービス事業所、障害福祉サービス事業所のBCP策定義務化期間が過ぎたが、市はチェックしているか。</p> <p>(3) 個別避難計画の内容を当事者、地域住民、民生委員、福祉、医療関係者、市職員などの関係者が話し合う地域調整会議の状況は。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長